

第7回山北町総合計画審議会 議事録

○日 時 令和6年2月15日(木)14時00分から15時50分まで

○場 所 山北町役場4階 401会議室

○出席者 [委員] 前田会長、渡辺会長職務代理人、佐藤(直)委員、高杉委員、
佐藤(精)委員、松澤委員、福岡委員、鳥海委員、瀬戸委員、荻野委員、
石田(浩)委員、有泉委員、坂本委員、池田委員、曾我委員、
石田(七)委員

[事務局] 参事兼企画総務課長、企画総務課担当職員

○配付資料 ・次 第

・資料1 第6回山北町総合計画審議会 議事録(案)

・資料2 意見募集(パブリックコメント)の結果

・資料3 山北町第6次総合計画 基本構想・前期基本計画(案)

・資料4 答申(案)

・参考資料 令和4年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率

○会議概要

1 開会

ただ今から、第7回山北町総合計画審議会を開会します。会議の開催に先立ち、委員の変更についてお知らせします。山崎佐俊委員におきましては、昨年12月31日をもって山北町の副町長職を辞職し、新たに石田浩二副町長が委員に就任いたしましたのでご報告いたします。

2 会長あいさつ

皆さんこんにちは。この審議会におきましては、これまで本当に熱心にご議論をいただき、段階的に内容を固めてまいりました。1月中旬から下旬にかけてはパブリックコメントも実施されましたので、本日はその結果を踏まえた最終的な確認作業になるかと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いします。

3 議題

(1) 第6回審議会議事録の確認について(資料1により事務局説明)

委員: 意見なし

会長: それでは、議事録案についてはご意見がないようなので、確定させていただき、町ホームページへ公開することとする。

(2) 意見募集(パブリックコメント)の結果について(資料2により事務局説明)

委員: 修正意見ではないがサイクリングに関連して、東京オリンピックの自転車競技においてわずかだが山北町を通過したので、その辺を少し意識してもらってもよいかと思う。

会長: ご意見ということで承りたい。パブリックコメントについては、ご意見をいただいた方に対して既に回答しているのか。

事務局: 回答はこれからである。本日、回答案について承認していただいたうえで、ホームページ上で回答することとなっている。

- 会 長： 個別には回答しないのか。
- 事務局： 基本的には個別に回答しないこととしている。
- 会 長： メールで意見をいただいたときに返信はしているか。後日ホームページにて公開することについて伝えているのか。
- 事務局： お礼の返信はさせていただいている。回答はホームページ上で行うことについて募集時に公開しているが、回答者が2人のため個別にメールすることは可能である。
- 委 員： 2つ目の意見に「優先順位を明確にし、緻密な計画を提示して欲しい」との意見があるが、優先的に取り組む事業を「重点プロジェクト」に位置付けているので、そのことについて記載してもらえればよいと思うがどうか。
- 事務局： 「重点プロジェクト」を定めていることについて書き加えることとしたい。
- 会 長： 我々はこの場で議論しているから理解しているが、一般の人がそこまで読み取るのは難しいと思う。「重点プロジェクト」について文言を書き加える方向で調整して欲しい。
- 委 員： 3つ目の意見に対する回答だが、サイクリングについては答えているがSKY広域圏については答えていない。今後スマートインターチェンジができることや、将来的に可能性がある富士山噴火への対応などを考えた時に、SKY広域圏へとつながる山梨県へ抜ける基幹道路の延伸は重要と考えられる。一方で、現状、県西地域で取り組んでいるのは静岡県へ抜ける伊豆湘南道路となっている。元々進めなければならなかった山梨県へ抜ける基幹道路の延伸について触れられていないがどうか。もう少し具体的に回答した方がよいのではないか。
- 事務局： 3つ目のご意見はサイクリングに特化したご意見と捉えている。
- 委 員： サイクリングとは一般的に町内を周遊するコースのことをいうのではないか。
- 委 員： 東京オリンピックのコースは非常によいコースと聞いているが、ここでの意見は平坦なコースを走る発想なのか、それとも高所を走る発想なのか。
- 事務局： ご意見の主旨は県域を超える広域的なサイクリング環境の整備についてであり、「楽しくサイクリングできる」の文言を書き入れるべきとのご意見である。
- 委 員： そのような主旨の意見であれば問題ない。
- 会 長： 前半部分は111ページに記載の文章を引用しており、その中にSKY広域圏の文言も入っているが、サイクリングについての内容が抜けているのではないかというご意見であり、地形上の理由などで安全性を担保するサイクリングコースの整備は難しいという回答のため問題ないと考える。先ほどの「重点プロジェクト」の記載については事務局で検討していただくが、基本的にパブリックコメントに対する町の回答については、この内容でよいか。
- 委 員： 異議なし
- 会 長： それでは、ホームページへの公開に向けて作業をお願いしたい。

(3) 山北町第6次総合計画(案)について(資料3により事務局説明)

- 委 員： 文言修正だが、128ページの注釈「将来負担費比率」を「将来負担比率」へ修正して欲しい。また注釈の内容だが、あまり細かな説明ではなく、簡潔にまとめた方が分かりやすいと思うがどうか。
- 会 長： 簡潔にまとめた方が分かりやすいと思う。事務局で検討してもらいたい。

- 委員： 町の実質公債費比率 11.2%と将来負担比率 9.8%の内容と、町の将来負担比率の過去5年間の平均が 36.4%との説明があったが、9.8%となった要因について教えて欲しい。
- 事務局： 担当課が異なるため詳細については説明できないため、別の機会でお答えさせていただきたい。
- 委員： 山北町の実質公債費比率は現状 11%台となっており、早期健全化基準が 25%のため余裕があるかといえばそうとは言えないはずである。山北町が現状大きな投資をしてるかといえばそうではなく、もっと住民サービスを進めようとするならば、投資や借入れを増やしていかなければならない。元々財政が健全であれば P F I 事業を行う必要はない。そのようなことから、今の数値がよいということはある得ないはずである。実際のところ、財政力が高い神奈川県内で見れば数値は悪い方である。今後、総合計画に基づいて、豊かなまちになっていかなければ困るわけである。今までのような進捗状況ではよい方向には向かっていかない。行政は安心感より現状を厳しく捉え、危機感を持って取り組んでいかなければならない。これから更に人口が減少し税収減になってくる。産業を誘致するなど色々なことを頑張らなくてはいけない。厳しさがあるから頑張ろうとするので、その辺りを心配している。
- 事務局： ご意見はしっかりと受け止めさせてもらい、財政部局にも伝えさせていただく。
- 会長： 私が町長へ答申する際には、そのこともしっかりと伝えさせていただく。
- 委員： 今日が最後なので、感想を含めて少しお話させていただきたい。将来像を「みんなでつくる ころ豊かに暮らせるまち やまきた」と定めたが、小さな子どもから高齢者まで、それぞれ居場所があることが豊かなまちづくりにつながると考えている。例えば退職された人が、歴史や自然に係る知識や技術を持っていたら、子ども達に教えることで交流が図られ、お互いに居場所ができればいいなと思っている。その中でこれから必要なのは英会話だと思う。英語ができる子どもが増えれば教育レベルが上がり、大人も英語が話せるような町になるといいなと思いながら審議会に参加させていただいたところである。
- 委員： 居場所づくりは今非常に大きな教育課題と捉えている。地域教育力ということで、学校内での居場所だけでなく、家に帰ってからの居場所や休日の居場所など、単なる教育のものということだけではなく、地域全体の教育力を高めることが大事だと思っている。計画にも位置付けたので、しっかりと施策として取り組んでいく必要があると考えている。また、英語力や国際理解といった教育についても進めていく必要がある。当初予算では A L T を 2 名から 3 名に増員して、園に配置していくことを予定している。一度にはできないが、着実に教育課題をしっかりと捉えて進めていきたい。
- 会長： 61 ページに子どもの居場所づくりについて記載されているが、最近では高齢者の居場所づくりも大変重要である。一人暮らしで孤立して周りとの連絡が取れない高齢者を一人でも減らすためには、地域におけるコミュニティづくりも重要になってくる。そのような観点からも、あらゆる世代の居場所づくりや地域の連携が重要になってくるかと思う。他にいかがか。なければ本計画案について、審議会として承認してよいか。
- 委員： 異議なし
- 会長： それでは、本審議会として、第 6 次総合計画の基本構想及び前期基本計画案について承認することとしたい。

(4) 答申(案)について(資料4により事務局説明)

- 委員: 1つ目に「重要となる進捗管理を行うための仕組みを早期に構築する」と記載されているが、今後どのような形で進めていくのか。例えば、定期的に審議会を開催したり、町民を含めた中で意見交換を行うといった考えはあるのか。何の腹案もなく仕組みを構築していくという文言だけでは丁寧でないと思うがどうか。
- 事務局: これまでの審議会の中で、検証が足りていないことを指摘されてきた。そのことは庁内の課長会議でも伝えてきたところである。今までは計画を策定するタイミング、5年に一度検証を行ってきたが、これからは例えば1年に一度など、定期的を実施する方向で来年度検討していきたい。1年に半分ずつ、または章を定めて行うといったヒントもいただいたところである。他の自治体の手法も研究して取り組んでいきたい。もちろん審議会も、策定するタイミングだけではなく、計画期間中にご意見をいただくことも検討していきたい。まだ確定した内容は無いが、しっかりと評価検証に取り組んでいく考えである。
- 会長: 進捗状況の評価が重要ということは、これまでの審議会の中で色々な委員の方から申し上げてきている。手法は色々あると思う。多くの項目を毎年全で行うのは大変なので、特に重要だと思われる部分をピックアップしてチェックするやり方もあると思う。前期基本計画の計画期間である最初の5年が終わる頃には、全部は無理だとしても、大きな項目の中でいくつかは必ず扱ったという状況にすることが重要である。職員も定期的の評価されるということが分かっているならば、緊張感をもって仕事に取り組まれると思うので、答申書の1つ目の項目は非常に重要である。
- 委員: 2つ目に「町民、民間事業者や各種団体など関係機関との連携強化」と記載されているので、ぜひ実践してほしい。連携や協力をしていく体制づくりも進めていただきたい。私も何かお手伝いできればと思っている。町民が一人でも多く参加できるような環境を作っていただきたい。
- 委員: 記載されている5項目はすべて重要だと思うが、順番を変えたらどうかという提案である。まずは大きな内容として2つ目の「将来像の実現や地域課題の解決」を記載し、そのために何を行っていくかといった提案的な内容を中段に、最後に財源の確保や仕組みづくりの構築といった内容を下段に入れ替えてはどうか。具体的には今の順番を、2→4→5→3→1としてはどうか。
- 事務局: ご意見のような整理の仕方もあると思う。委員の皆さまの了承が得られればそのように修正させていただきたい。
- 委員: その順番で意味は通じると思う。今回の総合計画の内容はこれでよいが、実現に向けてはやはり2つ目に記載のとおり、国や県を動かしていかないと問題は解決していかないと、進捗も上がらないと考える。例えば森林施策についてだが、今の町の施策だけでは民間事業者や所有者にも取り組んでももらえない。国や県が絡まなければ何もできないと思う。補助金も減ってきているため、獲得も含め、やはり国や県を動かすのは行政のトップである町長であることを副町長にも認識してもらいたい。国道246号の山北バイパスもそのような動きの中で実現してきた経過がある。答申内容はこれでよいと思う。
- 委員: まさしく2つ目に「国や県へ積極的な働きかけを行う」と記載されている。ご意見を町長へしっかりと伝えていきたい。

委員：パブリックコメントに2名しか意見がなかったことを聞いて少しがっかりした思いである。今回審議会で一生懸命話し合ってきたことに対して、一般の方々は意外に興味のないことだったりするのかなと残念に感じたところである。「みんなでつくる ころ豊かに暮らせるまち やまきた」に向けて、もっと町に関心を持つ人を増やしていくなど、町民の意識を変えていく必要性について触れられないか。

事務局：他のパブリックコメントでも意見がないことが多い中で、本当は多い方がよいが、少ないながらも2名の方にご意見をいただいたことはよかったと考えている。自治基本条例を策定したのが約10年前になるが、その中でパブリックコメントが位置付けられている。町で重要な計画を策定するにはパブリックコメントを実施しているが、まだ浸透していないように感じているため、発信方法などについてももう少し工夫する必要があると考えている。なお、答申内容は計画への意見となるため、ご意見についてはしっかりと受け止めさせていただきたい。

委員：計画書を見ただけで意見を出すのは中々難しいと思う。そう意味では、今回初めての試みとして中学生や町民向けのワークショップを実施した。今後は、計画期間中に意見をいただくことも一つの考え方だと思う。町に愛着を持っていただくとともに、町に対する想いを聞く機会を増やしていく必要もあると思うので、今後の参考にさせていただきたい。

委員：国や県の補助金等、町議会のチェック機能がしっかり果たせれば進捗もよくなると思う。第6次総合計画では将来人口を8,100人と想定しているが、更に減少すれば税収も減り、福祉医療に係る予算の割合が増えてくる。そうならないよう実行に移してもらいたい。

会長：4つ目の文章に「人口減少化社会」とあるが、「人口減少社会」ではないか。

事務局：「人口減少社会」に修正する。

会長：他にいかがか。なければ本答申案について、ご意見いただいた部分を修正し、審議会として承認してよいか。

委員：異議なし

会長：それでは、本審議会として、修正した内容で答申することとしたい。

(5) その他

事務局：お認めいただいた答申案は、2月26日に会長から町長へ手渡していただく。その後、基本構想は3月議会に上程し、議決が得られれば4月から新しい総合計画がスタートする。今後、資料編の作成や写真を入れ込むなど、体裁を整えて冊子にし、委員の皆さまには配付させていただく。また、4月1日の広報で周知するとともに、その後、概要版を全戸配付する予定である。微修正がある場合は、会長一任とさせていただきたい。本日の議事録は皆さまに郵送し、確認後ホームページで公表することとしたいがよろしいか。

委員：異議なし

会長：委員の皆さまから他に何か発言はあるか。

委員：今回、総合計画の策定に係わらせてもらい、私なりに面白い総合計画を策定している自治体を調べたところ、宮城県の利府町が面白いと思ったので紹介させていただく。利府

町は、子ども版の総合計画を作るなど、子どもの視点からも町の進む方向が分かりやすくなるような工夫を行っている。すごろくのページなど、デザイン性も意識しており大変見やすい総合計画となっている。また、飲食店数や宿泊施設数、町内会活動に参加している町民の割合やスポーツ施設の利用者数など、あらゆる指標が数値化されており、職員の方が追うべきデータをしっかりと整理されていると思う。このデータを積み上げていけば、結果町が進むべき方向も見えてくると思うので、山北町でもこのような視点をもって総合計画の策定に今後臨むべきでないかと考える。また、山北町の総合計画も、どこかのタイミングで見やすく分かりやすい物に切り替えていく必要があると思う。そうしないと、町民の方々の理解度も深まらないし、パブリックコメントも増えてこないのではないか。山北町は面白い町だと思っているので、総合計画も面白くしていく必要があると思う。

会長： 利府町は仙台市から近いベッドタウンとして発展している町として知られている。子育て世代も多く移住していて、この近辺であると千葉県流山市まではいかないが、住民意識も高く、ユニークな取り組みもしているので、ぜひ参考にさせていただきたい。他になれば、以上で私の会長としての役割は終了となる。毎回皆さんに熱心に議論していただき感謝申し上げます。計画ができて、実際にどうやって実施していくかというところに、山北町のこれからは問われると思うので、ぜひとも全庁的に取り組んでいただきたい。

4 その他

副町長あいさつ

第6次総合計画の策定にあたり、前田会長をはじめ、委員の皆さまには7回にわたり、本当に熱心に取り組んでいただきました。町の現状をご理解いただき、今後10年間の町のあるべき姿を見通しての色々な施策についてご検討いただき感謝申し上げます。今後は、策定して終わりではなく、実行・実践していくことが肝要だと思います。また町の行政を担う者といたしまして、関係機関と連携して着実に一步ずつ前に進めていきたいと考えております。そして町のめざす姿であります「みんなでつくる ころ豊かに暮らせるまち やまきた」の実現に向け、鋭意努力してまいります。最後に、皆さま方のご尽力に感謝申し上げますとお礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

5 閉会

それではこれもちまして、第7回総合計画審議会を閉会します。皆さまには本当に長い期間ご尽力いただきありがとうございました。

以上